

## 映画と本 原作小説、ノベライズ本、脚本・・・

今号で紹介した「おおかみこどもの雨と雪」など、映画化した小説を映画で観た時と、原作を読んだ時の感動や印象が違ったことはありませんか？原作が漫画だったり、映画作品をあとから小説化したものも同様の印象がありますよね…。今回は映画化された小説をご紹介します。映画だけは観たことがあるという方もぜひ図書館で借りて、読んでみてください！

### 三浦しをん「まほろ駅前多田便利軒」（映画2011年公開）

映画では東京の外れのまほろ市で便利屋を営む男性二人組みのおかしく切ない毎日が、まほろ市の風景や、さわがしく動き回る登場人物とともに描かれました。原作小説はエピソードも満載に、まるで漫画のような軽快なリズムで進んでいきますが、主人公の心の葛藤が語られる場面やシリアスなシーンでは文学の味わいを感じます。



### 梨木香歩「西の魔女が死んだ」（映画2008年公開）

梨木香歩の代表作、中学生の女の子が初夏のひとときを、やさしく不思議なおばあさんと森のなかの家で暮らす物語です。映画では木々の緑が美しく、その暮らしぶりも瑞々しい映像で描かれていて、終盤のおばあさんの魔法は映像で観ても文章で読んでもそれぞれの感慨があります。また、原作小説には続編も収められています。

### 誉田哲也「武士道シックスティーン」（映画2010年公開）

成海璃子、北乃きいのダブル主演で映画化された小説です。宮本武蔵マニアで勝負にこだわる孤高の磯山と、日舞から剣道に転身し楽しんで剣道をしたいおっとり型の西荻。この対照的な二人が一緒の高校になり、切磋琢磨しながらお互いに成長する物語。原作小説では二人の視点から1章ずつ交互に話が進んでいくので、映画よりも二人の心情に共感できると思います。

### J・K・ローリング「ハリー・ポッターと賢者の石」（映画2001年公開）

世界140カ国で出版され、1億部は売れたといわれる驚異の大ヒット小説の映画はご覧になりましたか？2001年に公開されたのでご覧になった方も多いでしょう。魔法学校で魔法使いになるために勉強する少年少女達の冒険ファンタジー。原作に忠実に映画化された作品なので、小説とあわせて読むと更にその世界に引き込まれること間違いなしです。

# TEENS JOY

10代のみなさんへのおすすめ図書リスト



No.12 2013.1

清瀬市立図書館

## おおかみこどもの雨と雪

細田 守／著  
角川書店(角川文庫)



花は「おおかみおとこ」と恋に落ち、二人の子どもをさずかったが、父親のおおかみおとこが死んでしまう。残された花は「おおかみこども」を育てるために都会をはなれ、田舎町に移り住むことにした。おおかみと人間、両方の姿と生態を持つ「おおかみこども」を体当たりで育てる母親・花。山や学校での暮らしを前にして、おおかみと人間、どちらの人生を選ぶのかを悩む正反対の性格の姉弟・雪と雨。三人が葛藤しながらもそれぞれの人生を歩む姿に、自分の生き方も考えてしまう物語です。

<中央図書館 栗本>

俳句同好会で顧問をしている著者に、生徒からダンス部の顧問になってほしいと頼まれる。条件付きで、踊る俳句同好会が誕生した。みなさんは俳句を詠むなんて、難しいと思いませんか？著者は「基本は日常である。私達が今立っている場所や、状況を書けばいい」と語っています。俳人でもある著者が俳句の特性を踏まえながら、五・七・五（十七音）を使い、わかりやすく書かれた一冊です。身近な所から俳句の魅力を見つけてみませんか？

<駅前図書館 大橋>

## 部活で俳句

今井 聖／著  
岩波書店



住民の大半がカニ漁で生計を立てているアメリカ北西部の小さな町ロイヤルティ・アイランド。ある日漁船団のオーナーが急死し、その息子が跡を継ぐことになった。その跡継ぎは、外国に事業を売り払うと宣言し、住人との間に不協和音が生じる。そんな騒動の中、いつか父とともにアラスカに行くのを夢みていた14歳のカル少年は、大人たちが町を守るために手を染めたある犯罪の存在を知ることになる。多感な少年が知った犯罪の存在とは……欺瞞（ぎまん）と裏切りを描いたミステリアスな作品です。

<下宿図書館 菅原>

## プリント船長が まだいい人だったころ

ニック・ダイベック／著  
早川書房



「弘法筆を選ばず」ということわざは有名ですが、現代では、文具と学習能力は切っても切れない関係にあります。書きやすいペン、色とりどりの付箋、便利な手帳など、文具の使い方によっては、勉強や仕事の成果が大きく変わることも事実です。しかし、時には市販の文具が物足りない時もあるのでは？そんな時には100円ショップにある品を使って、自分に合わせた文具を工夫してみませんか？そんなアイデアが詰まった本です。

<中央図書館 木原>

## 「整理・勉強・手帳・ノート」の 100円ショップ文具術

文房具朝食会＋多田健次／著  
ダイヤモンド社

